

## 二本松第一中学校男子ソフトテニス部

### 全国中学校ソフトテニス大会で団体準優勝！

8月22日から石川県で開催された全国中学校ソフトテニス大会において、二本松第一中学校の男子ソフトテニス部が団体戦で準優勝という快挙を成し遂げ、その報告のため市役所を訪れました。

体も心もひとまわり大きくなった姿をみせてくれた生徒たち。大会を振り返り主将の斎藤円空さん(3



年)は「準優勝は悔しいけれど、中学生最後の大会で決勝まで進めていい経験ができた。今後も頑張りたい」と述べました。

昨年の同大会では3位入賞を果たしており、「来年はもっと良い成績を残したい」と話していた選手たち。一年間頑張ってきたメンバーは、その言葉どおり準優勝を果たしました。

## 全農杯 平成28年度全日本卓球選手権大会 高橋航太郎君が3位入賞！

7月29日から兵庫県で開催された全日本卓球選手権大会において、高橋航太郎君(二本松卓研所属・石井小学校6年)がホープス男子シングルの部(小学6年生以下)で3位入賞を果たし、その報告のため市役所を訪れました。高橋君は決勝トーナメントの3回戦、4回戦、準々決勝と3戦連続でフルセットの激戦を制し、準決勝まで進出しました。ホープス男子の部で高橋君の全国ランキングは4位。これからの活躍が期待されます。



▲右から2人目が高橋航太郎君



## 東北電力旗 第29回東北ミニバスケットボール大会 石井スポーツ少年団が優勝！

8月12日から宮城県で開催された東北ミニバスケットボール大会で、石井スポーツ少年団ミニバスケットボール部が見事に優勝を果たし、その報告のため市役所を訪れました。石井スポ少は1回戦こそ66対49の大差だったものの、2回戦(59対57)、準決勝(68対63)、決勝(35対34)の僅差で競り勝ち、佐藤義勝監督も子どもたちの精神力の強さをたたえていました。選手13人中6人が6年生で、小学校卒業後はそれぞれ別の中学校へ進学するため、今後、互いに成長した姿で対戦することになりそうです。

## ロープウェイで紅葉絨毯を一望



### 《あだたら山ロープウェイ》

- 営業期間 平成28年11月6日(日)まで
- 営業時間 8時30分～16時30分 (上り最終15:50/下り最終16:20)
- 料金 片道 大人1,000円 小人 750円 往復 大人1,700円 小人1,300円

二本松市奥岳温泉  
あだたら高原スキー場  
TEL 0243-24-2141  
<http://www.adatara-resort.com>

## ／ 絶景の露天風呂 ／



### 《あだたら山奥岳の湯》

- 営業時間 10時～17時(年中無休)(メンテナンスによる休業日あり)
- 料金 大人 600円 小人 400円

## 第19回いきいき長寿県民賞受賞

### 俳句の道で活躍する鈴木澄枝さんが受賞

8月1日、県文化センターにて、県と県社会福祉協議会主催の第19回いきいき長寿県民賞を鈴木澄枝さん(杉田町)が受賞し、その報告に市役所を訪れました。

この賞は、いきいきと年齢を感じさせない充実した生き方をしている高齢者をたたえるもので、今回は8人・2団体が受賞しました。

鈴木さんは大正11年生まれの94歳。昭和55年から現在に至るまで杉田俳句会の会長を務める傍ら、平成17年から杉田小学校の児童に俳句の指導を毎月ボランティアで行っています。

俳句の魅力について鈴木さんは「俳句は入りやすくて成り難し」といわれ、詠む人自身の心が表れることが魅力だと話します。これからのますますのご活躍を期待いたします。



▲受賞報告をする鈴木さん(左)と小泉教育長(右)

## 「福島しあわせ運べるように合唱団」

### 復興の思いを歌い継ぐ



▲市役所市民ホールで歌う子どもたちと、歌声に聴き入る来庁者

阪神大震災があった1995(平成7)年に被災地・神戸で生まれた曲「しあわせ運べるように」の歌詞を「福島」や「ふるさと」に変えて歌い継ぐ「福島しあわせ運べるように合唱団」は8月22日、市役所市民ホールで復興への思いを込めた元気な歌声を響かせました。

小学3年生から高校1年生までの約30人の団員は、夏休み中に練習に励み、8月21日には避難指示が7月に解除された南相馬市小高区を訪れ、住民から話を聞くなどして復興への思いを新たにしました。

市民ホールでは「しあわせ運べるように」や原発事故で散り散りになった小高中学校卒業生らの声を集めた「群青」など3曲を披露し、会場からは大きな拍手が送られました。

## 安達ヶ原ふるさと村やその周辺の魅力を高めるために

### まんじゅしゃげ 曼珠沙華の栽培面積で「日本一」目指す

安達ヶ原ふるさと村や隣接する公園、阿武隈川堤防に曼珠沙華(和名は彼岸花)の花を植え、植栽面積日本一を目指す「安達ヶ原ふるさと村の景観を良くする会」の第1回曼珠沙華まつりが、9月10日に開幕しました。

同会は、客足が減少するふるさと村や周辺の魅力を高め、地域活性化や住民の元気につなげようと、大平地区の住民の皆さんや各種団体、企業などで平成26年12月に発足し、昨年2月から球根やポット苗の植え付けを進め、現在は約5.5ヘクタールに約21万6千本が植えられています。栽培面積では、一面に咲き誇る曼珠沙華で知られる埼玉県日高市巾着田と並んでおり、最終的に約5.8ヘクタールを目指しています。

曼珠沙華が新たな二本松市の観光資源となり、地域そして市全体に活気がもたらされ、さらに市民の憩いの場となることが期待されます。



▲白い曼珠沙華と安達ヶ原ふるさと村の五重塔



▲阿武隈川の堤防法面一体に咲き誇る曼珠沙華